

「安全安心社会の為の Safety Service Engineering」(SSE 研究会)

社団法人日本機械学会産業・化学機械と安全部門 SSE 研究会・第 1 回議事録

日時： 2010 年 4 月 9 日（金）13：00-15：30

場所： 東京都新宿区信濃町 35 日本機械学会、会議室

出席者：20 名（設立及び推進会員他、招待者）

SSE 研究会主旨：

安全は基本的人権に基づき、誰もが求める概念で、機械類の安全は危険源を事前に設計段階で処理するリスクベースド・アプローチ(RBA)により達成され、これは安全工学の基本です。安全設計⇔設計論⇔LCA の位置付けを基に、全ライフサイクルの観点から予防概念の有効性が導き出されます。更には、最近のサービス工学の動向も踏まえ、従来の供給者論理から、受給者論理への転換、そして全ての関係者にとり有効な Safety Service Engineering(SSE:仮称)のあり方を研究する SSE 研究会が 2010 年 3 月に発足した。

本研究会は、先ず予防概念の有効性を機械使用者の観点から検証し、同時に安全に関係する各界の専門家に話題提供を頂き、SSE のあるべき姿を視野にいれ、その成果を部門発表会、ワークショップ、論文等で発表する事を計画している。

安全知とものづくりの経験を、日本発として発信したい方の参加を求める会である。

議事：

1. SSE 研究会発足にあたって (30 分)

日本機械学会産業・化学機械と安全部門長 加部隆史（以下、敬称略）

配布資料 No.1 Safety Service Engineering(SSE)の提案(未定稿)

No.2 SSE 研究会の発足(ppt24 枚)

SSE 研究会発起人である加部隆史より、趣旨説明があった。Safety-Service-Engineering のそれぞれの用語が、口語体の一般用語と異なり、定義されている事の説明、並びにサービス概念の欧州での実践例が説明された。

SSE 研究会主査・長岡技術科学大学名誉教授 田中紘一より、開会の挨拶があった。

2. サービス工学の概要 (30 分) 首都大学システムデザイン研究科教授 下村芳樹

配布資料：無し

21 世紀初頭から台頭してきた、新しい分野でのサービス工学についての概要説明、とりわけサービス CAD 構築についての説明があり、活発な質疑応答が行われた。

3. 事例研究 1.H 社 (30 分) NPO 安全工学研究所主幹研究員 岡村隆一

配布資料 No.3 事例発表 1.H 社の例：顧客が望む機械を具現化する国際電気規格をベースとした「仕様の標準化」と“効果”(ppt21 枚)

グローバルな観点から安全を実施した際、その負荷費用は、設計プロセスの標準化・平準化により充分に最適化出来、実ラインで - 15% の費用削減が実施された例が説明された。

4. 質疑応答 (20 分)

5. その他 次回研究会開催は、2010 年 5 月 11 日（火）13:00 より

(記録：加部隆史)